

令和7年3月15日

保護者の皆様
地域の皆様

さくらの学び舎 世田谷区立笹原小学校
校長 吉田 健二

令和6年度の学校経営報告・自己評価報告

令和6年度の学校経営報告・自己評価は以下の通りとなります。

1 目指す学校

◎信頼と誇りのもてる学校 キャッチフレーズ ～「元気で」「笑顔で」「輝きのある」笹原小学校～

- (1)「子どもの笑顔と輝き」 全ての子どもが、「学校を大好き」と感じている。
- (2)「教職員の笑顔と輝き」 全ての教職員が、子どもに愛情を注ぎ、その成長に喜びを感じている。
- (3)「保護者・地域の方々の笑顔と輝き」 子どもを第一に考え、安心して通わせることができる学校。

2 今年度の主な取組と自己評価

(1)重点目標への取組と自己評価

項目	主な取組	自己評価
主体的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成	①「せたがや探究的な学び」を推進し、「主体的に学ぶ子ども」「思考力・判断力・表現力を磨く子ども」「集団で学び合う子ども」の育成を図った。 ②学習指導のねらいを明確にし、子どもに「めあて」をもたせて学習活動に取り組みせ、学習後の「振り返り」を大切にし、思考力・判断力・表現力を育成した。 ③ICTを効果的に活用した個別学習・協働学習・一斉学習を工夫し、子どもの学ぶ意欲を高めるとともに、子ども自身が学習活動で操作・活用する能力を身に付けさせた。	①児童の 81%が肯定的な評価をしているが、実践の共有や拡大が不十分であった。全学年で推進していくための単元開発を行っていく。 ②授業の充実により、「めあて学習」の定着化が図れてきた。一方で、学力調査結果を見ると依然として課題が見られる。今後も継続・発展させたい。 ③授業においては児童の 88%が肯定的な評価をしている一方、家庭学習においては 61%の肯定率にとどまる。家庭学習での学習用タブレット端末活用を図り、児童の学ぶ意欲を高めていく。
多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成	①「人権に関する教育」「心の教育」の充実 子ども同士、子どもと教職員の豊かな人間関係づくりを通して、多様性を認め合い、自他の人権・生命を尊重し、思いやりの気持ちと態度の育成を図った。 ②特別支援教育の推進 配慮を要する子どもはもちろん、全ての子を全ての教職員で育てることを考え方の基本とし、問題を一人で抱え込まない校内態勢の充実を図った。 ③校内研究(特別活動<学級活動>)を中心に実践を広げ、対話的・協働的な学びができる子どもを育成した。	①児童の 86%が肯定的な評価をしている一方で、いじめや友達同士のトラブルの認知も依然として発生している。人間関係トラブルの未然防止策として、学校全体で引き続き取組を行っていく。 ②校内支援委員会を定期開催し、支援を必要としている児童の様子を共有したり、対策を検討したりできた。学校生活支援シート、個別指導計画は適切に作成しているものの活用は不十分だった。 ③学級活動の手順やツールの共有や充実が図れた。次年度は、話し合い活動について他の教科や領域への波及を図りたい。

自分の健康に関心を持ち、よりよい生活をつくる子どもの育成	①防災・防犯教育、安全指導、避難訓練を徹底し、自ら危険を判断する能力を高めさせ、自分の命は自分で守る(自助)、共に助け合う(共助)子どもの育成を図った。 ②「元気タイム」「長縄跳び・短縄跳び・持久走」等の取組を推進し、健康な体づくりと体力の向上に取り組み、すすんで体を動かす子どもを育てる。 ③食に関する年間指導計画に基づき、食育の推進・充実を図るとともに、食と健康づくりに関心をもつ子どもを育てる。	①安全教育全体計画に基づいて計画的に実施できた。来年度は、活動を再開する避難所運営連絡会と協働し、学校連携型の避難所訓練について検討を進めていく。 ②年間計画に基づいて実施し、一定の成果があったものの、体力調査等の結果を見ると持久力等の項目になお課題が見られる。来年度も継続して実施していく。 ③給食指導、保健給食委員会の活動により、給食の行事食や旬の食材の紹介等行った。残菜率低減に向け継続推進していく。
------------------------------	--	---

(2)経営の重点項目への取組と自己評価

項目	主な取組	自己評価
地域運営学校とし、保護者・地域との連携を深め教育力を活用する	①学校運営委員会、学校支援コーディネーター、保護者、地域の教育力を活用し、学習活動や行事の充実を図った。 ②土曜授業、学校公開期間、道徳授業地区公開講座等を通して、保護者・地域との連携を深めた。	①多様な教育活動において地域の教育力を活用できた。新たな取組の「認知症アクション講座」は来年度も継続していく。 ②来年度は土曜授業の実施基準が変更となるが、開かれた学校づくりに向け、多くの方に来校いただけるよう工夫していく。
新たな教育の取組「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。	①「さくらの学び舎」の桜丘中学校、桜丘小学校、桜丘幼稚園等と連携を深め、学習や行事交流を積極的に推進した。 ②学校運営委員会と連携し、地域の多彩なゲストティーチャーを招いたキャリア教室を5・6年生対象に実施した。	①学び舎あいさつ運動や中学校体験など実施している一方、児童の肯定率が60%と低調であり、取組や周知を強化していく。 ②児童の肯定率が前年比伸びたものの64%にとどまっている。教育活動の様々な場面でキャリア教育を推進していく。
広報活動・情報提供の工夫・改善を図る。	①開かれた学校づくりに向け、ホームページでの発信を強化した。年356件の教育活動(給食除く)をお知らせした。 ②PTA運営委員会、地域行事、地域連絡会等の参加を通して、学校や地域での児童の活動に関わる情報の収集に務めた。	①保護者の肯定率が86%と高く、前年比も大きく伸びた。来年度も引き続き発信情報の質を向上させていく。 ②保護者、地域の方々からの意見や要望、評判等を聞いたり、直接お答えしたりすることができた。来年度も継続していく。
授業の腕を上げることによって教員の資質と指導力の向上を図る。	①校内研究を生かして、指導方法の工夫・改善に取り組んだ。話し合い活動の活性化により思考力、表現力の育成を図った。 ②互いに授業を見合う、道徳月間の取組を毎学期行い、教材研究を深めたり、指導法を高め合ったりすることができた。	①全学年で話し合いの質を高めることができた。今後は更に言語活動を高めていくことに繋がるよう継続・発展させたい。 ②道徳科での取組は定着した。今後は、一部教科担任制も視野に、他教科での実施を検討し、指導力の一層の向上を目指す。
課題解決のできる組織体制「チーム笹原」を充実させる。	①教職員の協働態勢の充実を図り「チーム笹原」としての学校運営を推進した。事案に応じ外部諸機関との連携を図った。 ②児童・保護者、そして地域が学校へ気軽に困り感や悩みを相談することができるよう、よりよい信頼関係づくりに務めた。	①担任一人に抱え込ませず組織で対応することに取組み、教員の欠員を生じさせない運営ができた。継続して取組んでいく。 ②児童の肯定率が大きく伸びた。働き方改革の進展により児童と向き合う時間が増えたことも後押しした。継続していく。